

**問** コミュニティバスの  
今後は  
**答** 10月より町全域で  
有償による本格運行に

## 一般質問



西元和代

西元

コミュニケーションバスの試験運行中の20路線の中で13路線は利用者数が一人に達しないと聞く。一人でも必要とする方がいれば廃止し難いと思うが、全体の費用維持も重要。試験運行終了後の方向性・周知方法は、また、多くの方が低料金でコミュニケーションバスを利用できる一方で車椅子の方は利用できない。地域交通を担う事業者に迷惑をかけないよう三者協議会を立ち上げた上で有償運送に取り組むべきではないか。

池田町長

10月から町営バスの運行地域も含め、町全域を対象に国の認可を受けた有償による本格運行に移行したい。運行主体は津野町。運行業務と車両の維持管理を町内の2つのタクシー事業者に委託。運行ダイヤは試験運行時の利用者の状況や意見等を踏まえ、地域の二つに合った設定にしたい。高知高陵交通と重複する路線区間の調整は地域公共交通会議にはかつた上で国交

省の運輸局から認可を受ける予定。利用者が1人以下の路線も乗車があれば運行したいが総体的な運行経費を試算しなければならない。本格運行の中でも需要に応じて変更はあり得る。

有償運送は町内の介護タクシー事業者との調整等、非常にハーダルが高いが、障害者の移動手段の確保は大きな課題である。関係機関との情報共有の上、ベストな方法を探っていく。

岡崎企画調整課長

コミュニケーションバスについての周知方法は広報への折り込み・町営バス沿線の町民へのお知らせ・高齢者の会合やあつたかふれあいセンター等での説明・運転手へのその都度の説明・座談会での説明等、できるだけ多くの人が乗れるよう努めたい。

西元

**問** 一歩踏み込んだ対策を



福祉有償運送の車

が行政には限界がある。各集落づくり・地域づくり団体を中心とした地域に、空き家の活用方法を含めた所有者との協議への協力を願う。合意形成ができた段階で町の情報として取り入れ発信していきたい。具体的に空き家の利用にあたる交渉・契約は当事者間で行うことが原則だが、町の知り得る不動産取り扱い業者や高知県居住支援協議会と連携を更に密にし、住民の不安の軽減に努める。

池田町長

調査済みの空き家337棟のうち活用できるのは約20棟。

所有者との協議が第一だ